

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主所属	文化観光国際部文化振興課
施策名	(2) 本県ならではのソフトパワーの活用・発信	課(室)長名	村田 利博
事業群名	世界に通用する長崎県の歴史文化の活用と発信	事業群関係課(室)	地域づくり推進課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 長崎の地域学や日本遺産、本県とつながりの深い偉人たちなどを素材に、それらが結び合わさって相乗効果を生み、新たな資源として活用できるよう取り組みます。							(取組項目))長崎の歴史研究の推進と活用、日本遺産認定への取組と活用、長崎の地域学や地域資源、日本遺産等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信・活用)長崎ゆかりの偉人のさらなる顕彰や、中国、オランダとの交易の歴史などの切れ目ない情報発信による認知度向上と海外との交流拡大			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 平成27年度に文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定する「日本遺産」を創設し、全国から申請された83件の中から18件が第1号として認定され、本県から申請した「国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~」も認定された。さらに、平成28年度において、全国から申請された67件の中から19件が認定され、本県から申請した「日本磁器のふるさと 肥前 ~百花繚乱のやきもの散歩~」と「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ~日本近代化の躍動を体感できるまち~」の2件が認定された。継続して本県の特異な歴史・文化の調査・研究に取り組んできたことが、早期の目標達成に繋がった。 認定を受けて以降は魅力あるストーリーの情報発信やガイド育成等の取組を進めている。
	目標値			1箇所	2箇所	2箇所	3箇所	3箇所	3箇所(R2)	
	実績値		1箇所(H27)	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所		進捗状況	
日本遺産認定数(累計)		達成率		300%	150%	150%	100%		達成	

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 令和元年度事業の実施状況 (令和2年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和元年度事業の成果等	中核事業	
				H30実績	うち一般財源	人件費(参考)			主な指標	H30目標	H30実績			達成率
				R元実績						R元目標	R元実績			
1	取組項目	究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業費 文化振興課	H27-R3	8,486	8,486	31,888	研究者、県民及び観光客 本県の特色ある歴史文化の研究への助成、県内に所在するミュージアムの活性化と施設間の連携、日本遺産を地域の活性化につなげる取組を実施。 根拠法令	活動指標 日本遺産のPR活動件数(件)	30	30	100%	事業の成果 ・文化庁の補助金や各部会からの負担金等も活用し、日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島」の県内外におけるPR活動に注力した。目標達成には一部届かなかったものの、概ね一定の認知度は得られた状態にある。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・上記の取組が、認定された日本遺産をさらに活かした地域振興につながった。		
				7,389	7,389	23,862			30					
				8,440	7,890	23,925			35	40	114%			
2	取組項目	振興局活動推進費(県北プロジェクト) 地域づくり推進課	H28-R2	6,000	3,000	14,393	関係市町、各市町商工・観光関係団体、業関係団体など 佐賀県及び関係自治体、団体等と連携し、地域共有の資源である「やきもの」を中心に地域の魅力を広く発信するとともに、誘客の促進を図る文化ツーリズムの創出や商品造成等を行った。 根拠法令	活動指標 肥前窯業圏活性化のための協議開催回数(回)	12	10	83%	事業の成果 ・文化ツーリズム創出や商品造成等を地域の事業者等と行うことで、地域の参画促進と、誘客に繋がるコンテンツ等の充実が図られ、日本遺産「肥前窯業圏」特有の歴史や文化を県内外に発信した。		
				4,000	2,000	14,318			10	10	100%			
				3,000	1,500	14,355			3	3	100%			
							成果指標 新たな肥前窯業圏活性化事業構築数(件)	3	3	100%				
								2						

3	取組項目	長崎と中国の永遠の絆発信事業費	R元-4	10,447	10,447	15,908	県民等	長崎県のプレゼンスの向上や中国との交流の深化を図るため、隠元禅師や孫文・梅屋庄吉などに象徴される長崎と中国との交流の歴史について国内外への効果的な情報発信を実施する。	活動指標	中国と長崎の「永遠の絆」の情報発信数(回)	4	17	425%	事業の成果 ・隠元と黄檗文化に関する大規模シンポジウムを始めとする各種の情報発信を積極的に行い、中国との長年に渡る友好交流の歴史を県内外からの参加者に広く知ってもらうことができた。 ・事業群の目標(指標達成)への寄与・本県の大きな魅力である諸外国との交流の歴史を広く知らしめることにより、日本遺産に登録された歴史ストーリーへの興味を喚起することができた。
		文化振興課		5,235	5,235	15,950				根拠法令	成果指標	長崎と中国の繋がりの理解が深まった割合(%)	70	
										72				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

長崎の歴史研究の推進と活用、日本遺産認定への取組と活用、長崎の地域学や地域資源、日本遺産等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信・活用	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>「日本遺産」の取組については、文化庁の文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業)を活用し、日本遺産の目的である地域振興にも繋がるよう、情報発信、通訳ガイドの育成、講演会等を実施してきた。一方で、日本遺産の認定制度そのものの知名度がまだ低いこと、また、吉岐・対馬・五島の各地域が連携した普及啓発活動が十分に行えていないことが課題である。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>文化庁が今年新たに設定した日本遺産の日(2月13日)や、令和2年度に日本遺産新規認定が終了し、全100件程度となる希少価値の高まりを活かして、日本遺産そのものの知名度向上を図るとともに、文化庁の事業とも連動しつつ、各地域の構成資産が持つ魅力の磨き上げを図ること等により、ふるさと教育や観光誘客などの促進に取り組む。また、文化庁の日本遺産アドバイザーを招聘し、現地での取組に対する助言を得るとともに、各地域部会による座談会や先進地視察を実施し、より効果的に普及啓発事業を実施できるよう研鑽を図る。</p>
長崎ゆかりの偉人のさらなる顕彰や、中国、オランダとの交易の歴史などの切れ目ない情報発信による認知度向上と海外との交流拡大	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>県内中学・高校で小坂文乃氏(梅屋庄吉の曾孫)の講演会を開催し、国際的な視野を持つ若者の育成に寄与することができた。また、隠元禅師の顕彰については、大規模シンポジウムの開催や、県内外及び中国における講座・講演を実施し、一定の周知を図ることができた。ただし、長崎ゆかりの偉人に対する認知度はまだ十分ではなく、また行政主導による取組の側面が強く、民間交流を含めたさまざまな交流の広がりも不足している。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>国内外の専門家の研究成果の集積を行い、それをわかりやすい形で情報発信をしていく等の取り組みにより、国内外に広く孫文と梅屋庄吉の友情の物語や、隠元が日本文化に与えた影響に対する認知度・理解度を高め、さまざまな分野における交流の拡大につなげていく。</p>

4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目	文化振興課	日本遺産については令和元年度、文化庁の補助金による多言語対応(外国人用説明資料の作成)や、県外イベントでの情報発信などを実施。令和2年度においても引き続き情報発信の強化に努める。 なお、県内ミュージアムの展示ノウハウの向上等を目的とした小企画展は一定の役割を終えたものとして廃止している。		令和2年度に新たに認定された「砂糖文化を伝えた長崎街道～シュガーロード～」や、他の認定遺産との連携による情報発信など、日本遺産や長崎の地域学等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信等について、取組をより強化していく必要がある。	改善
2		振興局活動推進費(県北プロジェクト) 地域づくり推進課	窯業圏の持つ様々な魅力について効果的かつ積極的な情報発信を図るため、ターゲットを明確に定めた事業を展開する。 令和2年度が事業終了年度であることから、協議会の自主化を視野に入れた、新たな運営体制の検討・構築を進めていくために各産地の現状や意向を調査・把握する。		令和2年度終了予定であるが、2022年の九州新幹線西九州ルート開業に向けて「肥前窯業圏」を活用した地域活性化を図るため、関係団体とともに新たな運営体制を検討し、これまでの事業の成果を活用して肥前窯業圏の持つ様々な魅力について効果的かつ積極的な情報発信を継続・強化する必要があり、事業の再構築を検討し、今後も県北振興局プロジェクトの一環として、肥前窯業圏の取組を支援していく。	終了

3	取組項目	長崎と中国の永遠の絆発信事業費 文化振興課	令和元年度新規事業として、これまでの梅屋庄吉の顕彰に加え隠元の来日に長崎が果たした役割やその功績に関する情報発信等の取組を重点化し、シンポジウムの開催や幅広い情報発信のための県内外及び中国における講座・講演等を実施した。令和2年度においても引き続き情報発信の強化に努めるとともに中国との交流の深化を図る。	隠元禅師大遠諱350年である2022年に向けて顕彰の気運が高まっていくことが想定されるため、令和3年度はその準備についても組み込みつつ、隠元ゆかりの地域(京都宇治や中国福建省等)と連携した活動を実施していく。	改善
---	------	------------------------------	--	--	----

注：「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

〔事業構築の視点〕

- 視点 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- 視点 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- 視点 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- 視点 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- 視点 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- 視点 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- 視点 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- その他の視点